

小学校 生活科

1. 生活科における学習評価の基本的な考え方

生活科では、児童の具体的な活動や体験を含む、学習過程すべてが学びとなります。つまり、生活科における学習評価は、活動や体験そのもの、すなわち結果に至るまでの過程を重視して行います。そのためには、単元の目標を明確にするとともに、評価規準を具体的な児童の姿として作成することが大切です。

2. 小学校生活科の学習評価の事例

小学校生活科の「内容のまとまり」は、学習指導要領に 9 つの内容として示されている（1）学校と生活、（2）家庭と生活、（3）地域と生活、（4）公共物や公共施設の利用、（5）季節の変化と生活、（6）自然や物を使った遊び、（7）動植物の飼育・栽培、（8）生活や出来事の伝え合い、（9）自分の成長です。この内容のまとまりを踏まえた学習評価の事例を、第 2 学年（7）「動植物の飼育・栽培」の事例で説明します。

例 第 2 学年 内容（7）「動植物の飼育・栽培」

（1）単元の目標の設定

単元名 「いきもの 大すき」（全 16 時間）

具体的な学習対象や学習活動に即して、ここでは学習指導要領に示された内容（7）の記載事項を踏まえ、目標を設定する。



単元の目標

モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって働きかけ、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに気づき、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切にすることができるようにする。

（2）単元の評価規準の設定

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
単元の評価規準	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットに合った世話の仕方や生命をもっていることや成長していることに <u>気づいている</u> 。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットの変化や成長の様子に関心をもって <u>働きかけている</u> 。	モルモットを飼育する活動を通して、モルモットへの親しみをもち、生き物を大切に <u>しようとしている</u> 。

児童の姿を評価するため、文末は「～している。」等にする。

	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
小単元における評価規準	①モルモットの特徴、変化や成長の様子に <u>気づいている</u> 。		①元気に育てたい、仲良くなりたいという思いや願いをもって、モルモットに関わろうとしている。
	②モルモットも自分たちと同じように生命をもっていること、成長すること、モルモットに合った世話の仕方があることに <u>気づいている</u> 。 ③モルモットを適切な仕方 <u>で世話をしている</u> 。	①モルモットの変化や成長の様子に着目したり、モルモットの立場に立って関わり方を見直したりしながら、世話をしている。	②モルモットに心を寄せ、モルモットの様子に合わせて、繰り返し関わろうとしている。
	④モルモットへの親しみが増し、上手に世話ができるようになったことに <u>気づいている</u> 。	②モルモットとの関わりを振り返りながら、世話を <u>して気づいたことやモルモットへの思い、自分自身の成長を表現している</u> 。	③モルモットとの関わりが増したことに自信をもち、関わり続けようとしている。

学習指導要領解説における資質・能力の記載事項を拠り所としながら、小単元の評価規準を作成する。その際、「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」も参考にする。

「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料の巻末資料に「内容のまとまりごとの評価規準（例）」及び「具体的な内容のまとまりごとの評価規準（例）」が示されています。

(3) 単元の指導と評価の計画（全16時間）の作成

小単元名 (時間)	○ねらい・学習活動	評価 規準	評価方法
1 見てさわって なかよし大きくせ ん(4)	○これまでの動植物の飼育・栽培経験を生かした様々な 視点からモルモットに関心をもつ。 ・3年生からモルモットの飼育を依頼され、話し合う。 ・獣医さんから、モルモットについての話を聞き、モルモットと関 わる上で、気を付けなければならないことを知る。 ・モルモットに触れたり、えさを与えたり、一緒に遊んだりしな がら、モルモットを観察する。	態① 知①	・観察カード、短冊カードの分析、 発言分析 ・観察カードの分析、行動観察
2 お世話でな かよし大きくせん (7)	○モルモットの飼育活動を通して、モルモットへの気付きを高 めながら働きかけたり、状況に応じて関わり方や世話の仕方 を考えたりする。 ・モルモットの飼育環境やえさ、世話の仕方などを調べる。 ・モルモットの様子に合わせて、世話の仕方を工夫する。 ・モルモットを飼育して、気付いたことや感じたことを絵や文で 表現したり、友だちに伝えたりする。	知② 知③ 態② 思①	・発言分析、調べ活動のメモやモルモッ トの世話の記録 ・行動観察や発言分析、モルモットの 世話の記録 ・行動観察や発言分析、モルモットの 世話の記録
3 ぼく・わたし とモルモット(5)	○これまでのモルモットとの関わりを振り返り、思いや自分自 身の成長を表現し、これからも生き物を大切にしようとする 態度を養う。 ・これまでのモルモットの飼育活動を振り返る。 ・世話をした気付いたことやモルモットへの思い、自分自身の 成長を、モルモットの本に表現する。	思② 知④ 態③	・作品(モルモットの本)や発言分析 ・作品(モルモットの本)や発言分析、行 動観察

知識・技能では、「無自覚から自覚化された気付き」「関連付いた気付き」「自分自身への気付き」などのように気付きの質が高まっていくかを評価する。

思考・判断・表現では、「見付ける」、「比べる」、「たとえる」、「試す」、「見通す」、「工夫する」などの思考が働いているかについて評価する。

具体的な子どもの状況を想定した指導と評価

上記(3)の単元の指導と評価の計画の中で、[知識・技能④]について説明します。

単元の指導と評価の計画を作成する際に、おおむね満足できる状況(B)の想定や、努力を要する状況(C)の児童への手だてを構想して、授業に臨むことが大切です。

小単元1 [知④] モルモットの特徴、変化や成長の様子に気付いている。(観察カードの分析、行動観察)

おおむね満足できる状況を、「モルモットの身体的特徴や行動面などに気付いている」と想定。

小単元1における児童1の観察カードの記述の変遷

〇〇にさわってうれしかった。
えさを食べてくれてうれしかった。

モルモットと触れ合った感想のみの記述なので、努力を要する状況であると考えられる。指導と評価の計画の際に考えた手だてが必要。

努力を要する状況の児童への手だて

・友だちと発見したことを紹介あう場の設定
・教員の問いかけ
「例えば、犬と〇〇では、どんなところが違うのかな」
※児童1の気付きを言葉で引き出したり、価値づけたりするようにする。

「あまりはやく走れないけど、ときどき早いときもある。」
「すぐにかくれる。」
「体が小さい。子ねごぐらいの大きさ。」

おおむね満足できる状況(B)